

令和7年 第4回建設技術研究開発評価委員会 <議事要旨>

日 時：令和7年7月30日（水）13:00～16:00

場 所：Web 会議

議 事：

- ・総合技術開発プロジェクトについて
- ・事前評価 「都市機能継続のための戦略的水害対策技術の開発」
- ・中間報告 「新技術等を用いた既成市街地の効果的な地震防災・減災技術の開発」
- ・追跡調査 「新しい木質材料を活用した混構造建築物の設計・施工技術の開発」

配付資料：

- 資料1 総合技術開発プロジェクトについて
- 資料2-1 都市機能継続のための戦略的水害対策技術の開発
- 資料2-2 新技術等を用いた既成市街地の効果的な地震防災・減災技術の開発
- 資料2-3 新しい木質材料を活用した混構造建築物の設計・施工技術の開発

議事要旨：

令和8年度の新規要求課題候補、現在実施中及び完了済みの計3課題について、事前評価、中間報告、追跡調査を実施するため、外部有識者会議を開催した。委員の主な意見は下記の通り。

○都市機能継続のための戦略的水害対策技術の開発

- ・都市における浸水リスクの低減をターゲットに、幅広い取組を包含するもので、国のプロジェクトとしての必要性は高いと考えられる。
- ・課題の特性から様々な専門性を有する研究者・関係者の参画が求められるため、様々な分野の研究成果をどのように集約するかがポイントとなる。
- ・研究成果については、研究過程で自治体のニーズも十分に調査されたい。被害レベルの可視化だけに留まらず、事前対策と復旧費用の関係性などのデータを示せるとより実用的かと思われる。また、手引きやツールの整備だけでなく、どこかの自治体でロールモデルをつくるなど、よりインパクトのある成果を目指すべきである。

○新技術等を用いた既成市街地の効果的な地震防災・減災技術の開発

- ・新技術の防災・減災への活用は大事なテーマであるが、社会実装のためにどのような仕組みが必要なのかといった次元までの話がないと、国のプロジェクトとしての意義が見えてこない。
- ・開発技術を誰がどういった場面で使用して、どう役立てるかをもう少し明確にすべきである。
- ・自治体などでも専門知識が無い場合があるので、ガイドラインを示すだけでなく、ユーザー側に寄り添った使いやすいツールにしていきたい。

○新しい木質材料を活用した混構造建築物の設計・施工技術の開発

- ・この総合技術開発プロジェクトの成果が法律になり、全国的に普及したということで成果は大きいと考えている。あとは、設計者が取り入れてくれるかどうか、この総プロの成果を社会実装していく際に重要であると考えます。
- ・ガイドラインの内容が本当に適切だったかどうか、という点については、今後も研究所の中でフォローアップしていただきたい。